

第22回バリアフリー推進勉強会in関西

大阪ヘルスケアパビリオンのコ・デザイン - 当事者参画のプロセスから生まれたモノ・コト -

石塚 裕子
(東北福祉大学)

- 1 問題意識
- 2 大阪ヘルスケアパビリオンの概要
- 3 ユニバーサルデザインプロセス
- 4 取り組みの成果
- 5 当事者参画のレガシー

お話すること



問題意識 (小さな声の人：弱い市民、客体としての市民)

「地域コミュニティが前提としていた住民とは、地域生活において社会的障壁を感じることなく多様な活動ができる『強い市民』を対象としており、物理的にも精神的にも社会的障壁を感じ地域生活に困難のある『弱い市民』の参加はあまり意識されてこなかった」 武川正吾(2006年), 「地域福祉の主流化」, pp. 60-66, 法律文化社, 2006.

「バリアフリー計画学の新たな射程として、**見えにくい障害**へ理解をはじめ、**周縁化される人々が参加できる場をデザイン**し、多様な当事者が利用者としてだけでなく、**担い手として参加する参加者の拡大**が求められる。」

石塚裕子 (2022), 「バリアフリー計画学の到達点と新たな射程」, 土木計画学論文集78巻6号

「**小さな声**」の人
まちづくりに参加できていない人や、客体としてしか扱われず、主体として扱われてこなかった人々

石塚裕子 (2023), 「被災地のスティグマを乗り越える 障害当事者が主体となった活動の可能性」. 福祉のまちづくり研究第24巻

近年の当事者参加の取り組みと課題

丹羽ら (2022) : 成田空港の大規模改修

調査から設計まで当事者参加、建築ルールの作成

高橋 (2019) : 新国立競技場の建設

基本設計、実施設計、施工段階での計20回のワークショップ
業務要求水準書「世界最高のユニバーサルデザイン」

かつては、

谷口・磯部ら (2007) : 中部国際空港の建設

障害者団体が業務委託という形で設計に直接関わる (主体となる唯一の事例)

➡ 「課題**解決**の共有化」が次の課題 (高橋 ; 2019)

2. 大阪・関西万博でのユニバーサルデザインへの取り組み経緯

1992年 大阪府・兵庫県「福祉のまちづくり条例」制定
 バリアフリーは西高東低と言われていた時代があった。
 ⇒1995年 阪神・淡路大震災後、神戸中突堤、阪急伊丹駅の
 当事者参画が実現

しかし、

- 2018年に大阪府が「ユニバーサルデザイン推進指針」を策定
 ⇒当事者の意見徴収がほとんど行われていなかった。
- 2019年に博覧会協会が「施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン」を公表
 ⇒「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」の基準を下回る
- 2021年12月～ 上記ガイドラインの見直しが始まった
 (並行して関西国際空港のリノベーションも)
 ⇒多様な当事者参加(精神、LGBTQ+、同じカテゴリーの複数の障害の当事者参画など)が実現

2. 大阪ヘルスケアパビリオンの概要

- 大阪府・大阪市のパビリオン
- 敷地面積 約10,500㎡ 高さ 約20m
- 会場内で2番目に大きなパビリオン

【出展テーマ】

REBORN

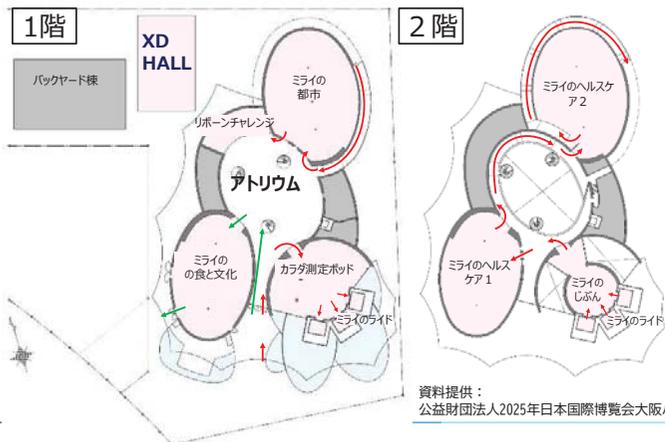
「人」は生まれ変わる
 新たな一歩を踏み出す

産学官民の力を結集と府民・市民
 の参画をめざして整備された。



概要

- リボーン体験・・・健康に生きる
- 大阪のチカラ・魅力の発信
- SDG's達成の取り組みを発信



資料提供：
 公益財団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

→リボーン体験【要予約】



→アトリウム・食と文化



XD HALL【要予約】



3. ユニバーサルデザインプロセス

【参加の場のデザインで留意したこと】

- ① 大人数会議という**参加の場のバリア**を生じさせないこと
 (例) 視覚障害者、聴覚障害者は発言のタイミングを逃しやすい
- ② 知的障害者本人など参加できていない**マイノリティ本人**の参加を可能な限り実現すること
- ③ 多様な人が「**主体**」となって**一緒に考える場**をつくること

会議形式ではなく、すべてワークショップやヒアリングで実施（計24回）

ワークショップ等	日時	リアル	内容	参加者
移動①	2022年 3月 8日		移動・館内の移動計画(EV、スロープ等)	車いす利用者 他
トイレ①	2022年 3月 8日		トイレ：平面計画(機能分敷など)	車いす利用者 他
移動② トイレ②	2022年 3月14日		移動、トイレの内容	視覚障がい者、聴覚障がい者 他
カムダウン・クールダウン①	2022年 3月14日			知的障がい者、精神障がい者、他
移動③ トイレ③ カムダウン・クールダウン②	2022年 3月25日			なかった方を中心
ヒアリング意見とりまとめ報告	2022年 6月15日			
みんなでトイレ作成チャレンジ	2022年 8月29日			企業 他
トイレプラン案の説明と意見ヒアリング	2023年 1月30日			企業 他
トイレとカムダウン・クールダウンルーム プランの確認など	2023年 3月29日	○	トイレプラン、カムダウン・クールダウンルームの報告、 展示イメージのヒアリング/UID推進チームの決定	当事者、作り手企業 他
展示計画などの説明と意見ヒアリング	2023年10月24日,11月7日		トイレ案内誘導WS、ポッドデモ機検証の進め方の意見交換 展示イメージのヒアリング意見とりまとめ	当事者、作り手企業 他
カムダウン・クールダウンルームの設備 等の確認	2023年11月30日	○	位置、大きさの確認と壁や家具の仕様の検討	医療的ケア、車いす利用者、 精神障がい者、作り手企業 他
みんなトイレの原寸床表示での案内誘導サイン ほかの確認	2024年 2月29日	○	トイレの案内誘導や使い勝手の原寸大での検証 カムダウン・クールダウンの仕様の報告	当事者、作り手企業 他
ポッドやライドのモックアップ検証等	2024年 5月28日	○	展示体験の原寸大での確認 トイレのサイン並び方	当事者、作り手企業 他
視覚障がい者個別ヒアリング	2024年7月8日,9日,11日	○	展示を楽しむための対応のヒアリング みんなトイレのサインの表示	視覚障がい者
情報保障	2024年10月15日	○	ホームページでの事前の情報共有	当事者、作り手企業 他
アテンド研修の進め方	2025年2月14日,19日		座学研修と現地研修の進め方	当事者 他
ナビレンスの確認(現地)	2025年2月22日,3月8日	○	ナビレンス(視覚障がい者向けアプリ)コードの設置位置と音 声内容の現地確認	視覚障がい者 他
アテンド研修(座学)	2025年 3月18日	○	多様性の理解や求められていることを当事者から学ぶ	当事者、大阪パビリオンアテンド 他
アテンド研修(現地)	2025年 3月27日	○	実際のパビリオンでアテンド対応を当事者から学ぶ	当事者、大阪パビリオンアテンド 他

最初のヒアリングは、
施設別、対象者別に複数回実施

内容によっては、事前説明、個別検討時間を設けた



建物の動線検討時には、視覚障害の方には事前に集まってもらって、模型を使って動線を確認いただいてから意見交換の場を設けた



カムダウンルーム検討時には、原寸の空間を再現し、床材や壁材のサンプルを用意して、知的障害や自閉症のある当事者とその家族にゆっくり検討してもらった

可能な限りモックアップを用意して、
体験的に検討できる場を設けた



実寸大でリフトライドの空間を準備し、立ち位置や映像の見え方などを検討した



展示設備やサインなどもデモ品を用意して、体験的に検討する場を設けて意見交換を行った

設計時だけでなく、施工時においても検討を重ねた



音声・文字情報提供システム (NAVILENS) の整備にあたっては、現場で配置や音声内容を確認、検討して、改良を行っていった。

UD推進チームによる検討

大阪ヘルスケアパビリオンでは、パビリオンの建築だけでなく、来館者に体験していただく展示、来館者が安全・快適にすごしていただくための運営まで、検討の過程も含めてユニバーサルデザインを推進する、大阪ヘルスケアパビリオンUD推進チームを設置し、検討を進めてきました！



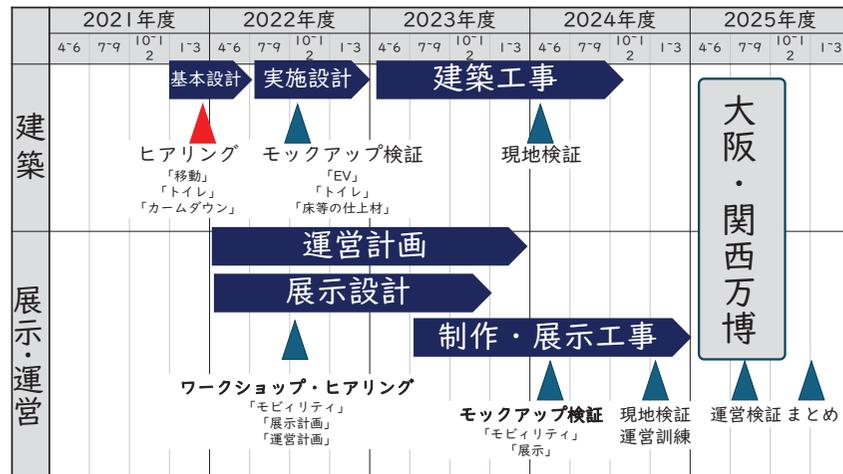
多様な、可能な限り本人（支援者だけではなく）の参加をお願いした

団体代表としてではなく、個人の参加も多い

障害種別	参加者	人数
肢体不自由	A氏（手動車いす）、D氏（電動車いす）、E氏（簡易電動車いす）、L氏（電動車いす）、M氏（電動車いす）、N氏（簡易電動車いす）	6人
視覚障害	B氏（全盲）、I氏（全盲）、J氏（全盲）、K氏（弱視から全盲）	4人
聴覚障害	F氏（中途失聴）、O氏（先天難聴）	2人
知的障害	C氏（親）、U氏（本人と親）	3人
精神障害	H氏（精神障害・LGBTQ）、P氏（精神障害）	2人
発達障害	Q氏（親）、V氏（本人と親）	3人
LGBTQ+	R氏（車いす、LGBTQ+）、W氏（LGBTQ+）	2人
医療的ケア	S氏（本人と親）、T氏（本人と親）	4人
高齢者	G氏（高齢者支援）	1人
合計		27人



ハード（建築）だけでなく、展示、情報、サービスと、連続した総合的なユニバーサルデザインへの当事者参画



資料提供：公益財団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

当事者参画による運営検証（アテンダントの研修）が実現しました



4. 当事者参画で生まれたモノ・コト（成果）

- ① 課題解決の共創の象徴「みんなトイレ」
- ② 同一動線・同一体験への挑戦
- ③ 開幕後も続くPDCAによる継続改善
- ④ 取り組みの検証 「UDひろば」の設置など

① 課題解決の共創「みんなトイレ」のチャレンジ

- ✓トイレには、多様な人から多様な意見が寄せられる。
- ✓ガイドラインでは機能分散化をめざすことが明記されているが、運用面では課題も多い。
- ✓属性によってニーズが異なり、**コンフリクト**が生じるケースもある。
(例) ジェンダーフリートイレの増設(LGBTQ+) ⇔ 視覚障害者の不安

専門家が作成した素案に対して多様な意見（要望）を聞き反映する方法では、空間的制約などがある中で、すべてのニーズを満たす「**正解**」はつけない。
⇒多様な当事者による「**成解**」（矢守2005）を見つけるプロセスを試行した。

3班に分かれて、トイレプランの作成にチャレンジしました。



資料提供：公益財団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

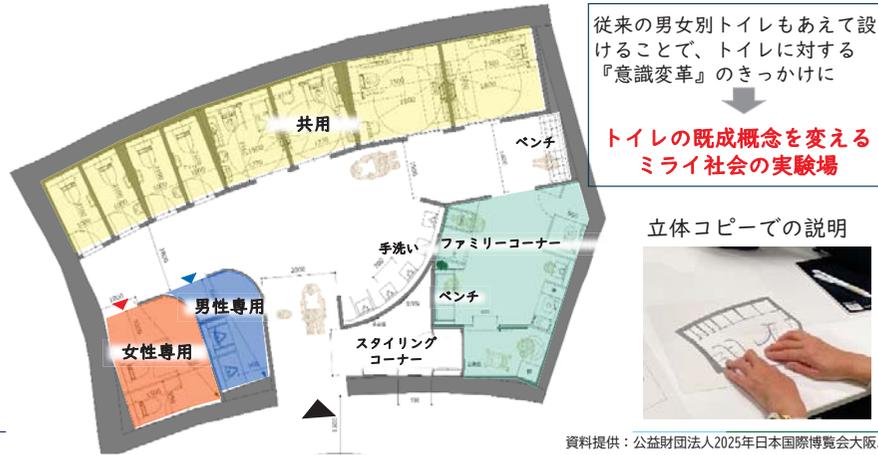
“福笑い”



資料提供：公益財団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

各班のプランをもとにまとめたプラン

誰もが分け隔てなく使えて、使いやすい「トイレ」とし、どうしても男女別でない人と抵抗が大きい人のための男女各専用スペースや、多様なニーズに対応するためのファミリーコーナーやスタイリングコーナーなどを追加

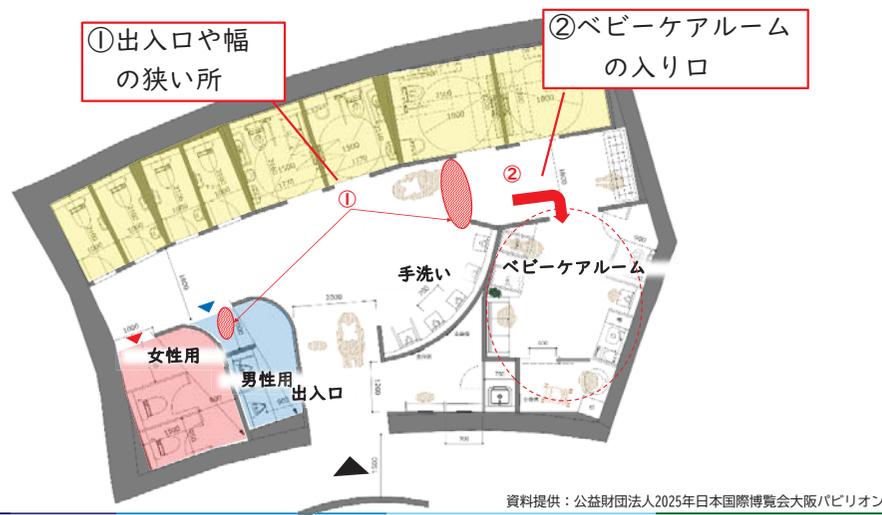


実物大の図面を床に敷いて、移動やサインの確認

原寸大図面で通路の幅を確認



実物大の図面を床に敷いて、移動やサインの確認



みんなトイレの前に掲示しているコンセプトボード

みんなトイレのコンセプトを伝えたいという思いでみんなで考えました

みんなトイレ Inclusive Toilet

わたしたちは差別のない社会を目指しています。でも、誰かが不便を感じている場合があります。たとえば、

- 「狭い通路や幅の狭い通路が苦手です。」
- 「移動の速度が遅い方が不便を感じます。」

We use toilets every day without even thinking about it. But some people have trouble using them, finding them difficult to use. For example:

- "The wheelchair-accessible toilets are always in use, which is a problem."
- "There is no toilet with the features I need when I go to the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."
- "There are many other people who use the toilet."

「みんなでトイレプラン作成チャレンジ」のプロセス

- ① みんなの声を聴く
- ② みんなでプランを作る
- ③ 試行錯誤を繰り返す

資料提供：公益財団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

開幕後も続く、PDCAによる継続改善

会期中も検証を重ねた



UDひろばの設置 9月上旬頃から

トイレワークショップの会話分析結果

【会話テーマの変遷】

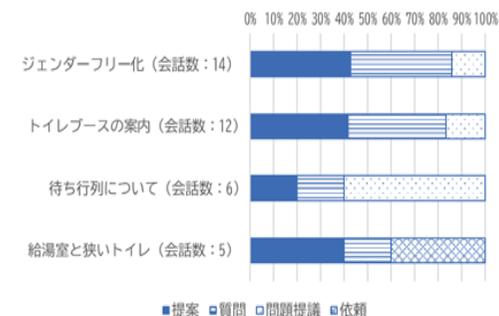
時系列に、①ジェンダーフリー化、②キッズトイレとベビーカーの扱い、③トイレブースの案内、④手洗い場の配置、⑤待ち行列、⑥給湯室と狭いトイレと変遷

【隣接ペア】

総数55回

「提案」と「質問」の占める割合が高く(ジェンダーフリー化やトイレブースの案内において80%以上)、「依頼(要望)」が少ない(給湯室と狭いトイレのみ)傾向。

多様な参加者が、提案や質問を繰り返し行うことで、合意形成が図られていることを確認できた。



2026/3/31

5. 大阪ヘルスケアパビリオンにおける当事者参画のレガシー 課題解決の共有化から発展して、課題解決の共創の場へ



課題解決の共有化から発展して、課題解決の共創の場へ

- 対等性を担保した場（チーム、仲間として一緒に取り組む意識）
- 情報保障の徹底（視覚障害、聴覚障害、知的障害の人への情報保障）
- 主体性（参加する当事者も責任をもつこと）
- 小さな声の人の参加（まだ参加できていない人はたくさんいる）

★ユニバーサルデザインを志す仲間が増えたこと